

明治14年 秋田の温泉調査

古文書倶楽部

【発行】
秋田県公文書館
2009.1
第26号

今月のおすすめ資料

明治十四年「衛生課司薬掛事務簿」

(資料番号 940108 00111)

寒い秋田の冬は、何と言っても温泉が一番。今号の「古文書倶楽部」では、明治十四年の秋田県内の温泉を調査した資料について特集します。

明治十四年(一八八一)五月、ドイツで開催される鉱泉学博覧会に出品するため、内務省衛生局は秋田県に対し、県下の温泉の薬効を調査し、源泉のサンプルと共に提出するよう通達しました。

これを受けて県庁衛生課は県下市町村に対し、温泉の所在地、発見年、湯の温度、色具合、効能と共に、温泉やその周辺を描いた絵図を提出させました。

源泉のサンプルは青森港から東京へ送られました。各市町村からの報告書は「衛生課司薬掛事務簿」に合冊され残されました。

「衛生課司薬掛事務簿」に記載されている温泉は四十九ヶ所。これを見ると、今から百二十八年前の秋田の温泉の湯加減が気になることは間違いなしです。

もっと詳しく知りたい方は、「衛生課司薬掛事務簿」を公文書館カウンターで出納してください。

「衛生課司薬掛事務簿」温泉一覧

場所	温泉名	場所	温泉名
1 仙北郡生保内村字黒湯沢	黒湯温泉 冷ノ湯	28 鹿角郡大湯村	下ノ湯温泉
	黒湯温泉 熱ノ湯		河原湯温泉
2 仙北郡田沢村字先達ノ内湯ノ沢	鶴ノ湯温泉 白湯		上ノ湯温泉
	鶴ノ湯温泉 黒湯	29 鹿角郡長谷川村字熊沢	蒸ノ湯温泉
3 仙北郡田沢村字蟹場	蟹場温泉	30 鹿角郡長谷川村字赤川	赤川温泉
4 仙北郡田沢村字玉川	鳩温泉	31 鹿角郡長谷川村字銭川	銭川温泉
5 仙北郡峰吉川村字小平上段	小平上段冷泉	32 鹿角郡宮麓村字湯瀬	湯瀬温泉 湯瀬ノ湯
6 仙北郡外小友村字湯元	湯元温泉		湯瀬温泉 中ノ湯
7 仙北郡外小友村字湯神台	湯神台冷泉	33 北秋田郡十二所町字大滝	大滝温泉 芒ノ湯
8 仙北郡中淀川村字滝ノ沢	滝ノ沢冷泉		大滝温泉 鶴ノ湯
9 雄勝郡川向村字桐ヶ台	椽湯温泉		大滝温泉 新湯
10 雄勝郡島等村字小安	小安温泉	34 北秋田郡森吉村支郷砂子沢字湯ノ沢	湯ノ沢ノ湯
11 雄勝郡役内村字湯ノ岱	湯ノ岱温泉	35 北秋田郡森吉村字湯ノ岱	湯ノ岱冷泉
12 雄勝郡下院内村字湯ノ沢	湯ノ沢温泉	36 北秋田郡長走村陣場	下モ内沢ノ湯
13 平鹿郡土淵村薫ヶ沢	薫ヶ沢冷泉		大場沢ノ湯
14 由利郡滝ノ俣村字岩野目沢	岩ノ目沢湯冷泉	37 北秋田郡岩瀬村字平戸内小沢	冷泉
15 由利郡親川村字湯ノ沢	湯ノ沢冷泉	38 山本郡藤琴村字湯ノ沢	温泉
16 由利郡福山村字岩倉	岩倉冷泉	39 山本郡常盤村支郷字大柄	湯ノ前ノ湯
17 由利郡滝村字弥六川内山下	弥六川内山下冷泉	40 南秋田郡湯本村	湯本ノ湯
18 由利郡柳生村字湯ノ沢	柳生村鉱泉	41 南秋田郡中津又村字滑多羅	鶴ノ湯冷泉
19 由利郡猿倉村字湯ノ沢	湯ノ沢冷泉	42 南秋田郡浅見内村	薬師ノ湯冷泉
20 由利郡小川村字檜木台	檜木台冷泉	43 南秋田郡堀内村字小栗	塩ノ湯
21 由利郡金浦村字塩焚浜	二夕子島鉱泉	44 南秋田郡白山村字湯ノ沢	湯ノ沢湯冷泉
22 由利郡西目村字小米沢	西目村鉱泉	45 南秋田郡湯ノ里村字滝ノ下	滝ノ下湯冷泉
23 由利郡伊勢居地村字大柵	大柵冷泉	46 南秋田郡道川村字愛染	神ノ湯冷泉
24 河辺郡百三段新屋村字町下木揚場	新屋村鉱泉	47 南秋田郡山内村字女夫石	鶴ノ湯冷泉
25 河辺郡黒瀬村字湯ノ目沢	湯ノ沢鉱泉	48 雄勝郡高松村字泥湯	泥湯温線
26 河辺郡階岨村字守沢	千齡冷泉	49 雄勝郡高松村字川原毛	川原毛大滝温泉
27 鹿角郡小坂村字砂子沢	砂子沢温泉		

「衛生課司薬掛事務簿」に記載のある四十九の温泉の内、三つを選んで紹介します。
 ただし、温泉の効能は「明治十四年段階で効き目がある」とされたもので、**で、くれぐれも御注意ください。**

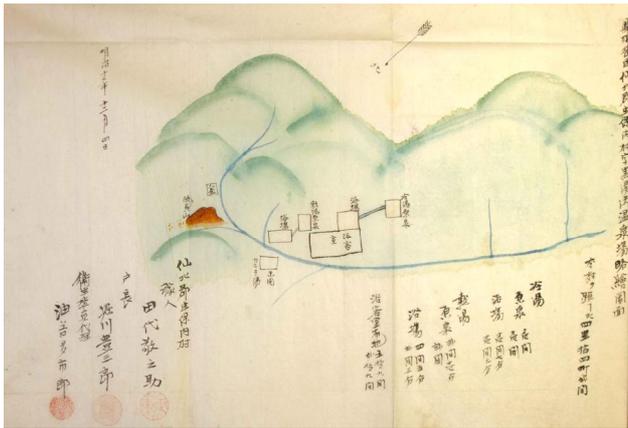
黒湯温泉(亀ノ湯)

(現・仙北市田沢湖生保内字黒湯沢)

- 1 温度 冷ノ湯八十七度 熱ノ湯七十九度。
(明治十三年十二月四日調査)

- 2 源泉 気泡あり。近くに硫黄を発生す。湯ノ花多し。温気蒸騰する所、溪谷を鳴動す。俗に大鳴釜と称す。

- 3 発見 享保年間(一七一六〜三五)に浴場開設と伝わる。



- 4 効能 冷ノ湯 逆上(のぼせ)
 ・梅毒・諸般の疵
 熱ノ湯 中風・疝気(腹痛)
 ・痰・咳
 ・痞(つかえ)
 ・脚気・淋病・骨節病(関節の痛み)

ニタ子島鉱泉(桜ノ湯冷泉)

(現・にかほ市金浦字塩焚浜)

- 1 温度 十二度(明治十四年二月一日調査)
- 2 源泉 塩焚浜の内、ニタ子島は塩見山と並立して金浦港島の北陰にあり。源泉はニタ子島の下、海浜に発す。海中にも湧出する。気泡なし。黒色の「湯ワタ」あり。

- 3 発見 文化年間の震災後に発見される。明治十二年浴場開設。

- 4 効能 疝気・脚気・疥癬(タニによる皮膚病)・頭痛(頭部の湿疹)・金創(きりきず)・腰痛



* 現在この温泉はないとのこと。幻の温泉？

大滝温泉

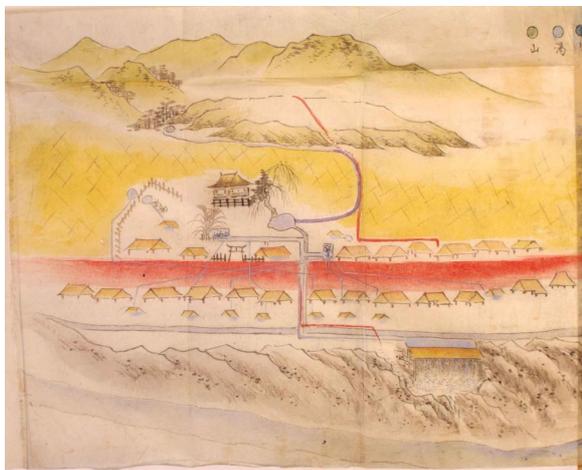
(現・大館市十二所)

- 1 温度 芒ノ湯 六十二度 明治十三年
 鶴ノ湯 六十三度 十二月二十四日調査
 新湯 五十八度

- 2 源泉 米代川の水面より高さ二丈五尺余の地中盤石の隙より沸騰湧出せり。

- 湯花の色は緑黒にて表面に白色を加ふ。入湯は春秋と梅雨の季節が佳し。

- 3 発見 遙か千余年前。年月の正しきを知るを得ず。



- 4 効能 芒ノ湯 火傷 疥癬 瘡癩(干ブ) 胎毒(湿疹)
 鶴ノ湯 痰・疝気
 ・冷え・産前後・火傷・瘡癩・疥癬
 新湯 疝気・冷え・産前後・瘡癩
 痰・疥癬
 ・火傷

温泉の効能を見ると、現代と明治十四年(一八八一)では、人々が温泉に何を求めて入浴していたのが全く違つことが分かります。興味深いですね。
 (畑中康博)